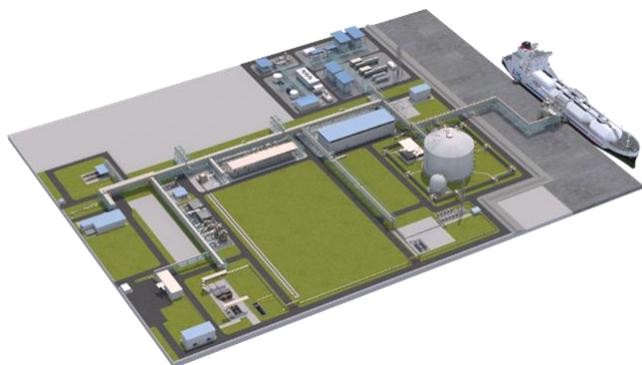


Hydrogen Road 水素社会の未来を切り拓く

川崎重工業株式会社



当社は船舶、鉄道車両、航空機、モーターサイクル、ガスタービン、産業プラント、ロボットなど幅広い事業を展開する総合エンジニアリングメーカーです。

川崎重工グループは、水素エネルギーをもっと多くの人に届けるために、水素を「つくる、はこぶ、ためる、つかう」、水素サプライチェーンの上流から下流に至る技術開発を進めており、水素社会の早期実現のために挑戦を続けています。

また、2025年には世界初の液化水素国際輸送を実現した運搬船「すいそ ふろんていあ」が、万博会場沖を航行しました。

川崎LH₂ターミナル完成予想図（神奈川県・川崎市）
2025年11月27日に起工式を開催

水素関連の取組・導入実績

国産初の水素液化機の開発・販売、液化水素運搬船の開発、建造、水素ガスタービン・ガスエンジン・ボイラの開発、販売など、NEDO助成によるコア技術開発を活かし、幅広い水素関連機器の実装において数々の実績を上げています。

液化水素運搬船「すいそ ふろんていあ」は4年以上の実証試験でBOR（蒸発率）0.3%/日を確認し、受入基地「Hy touch 神戸」の貯蔵タンクについてもBOR 0.06%/日と同規模のLNG用機器と同等の高断熱性能を達成しました。

今後の展開・事業計画

2025年11月には世界最大級の液化水素貯蔵タンク（5万m³）、海上荷役設備、水素液化・送ガス設備、ローリー出荷設備を備えた商用規模LH₂ターミナルの起工式を開催、当ターミナルは日本水素エネルギー（株）が事業主体、川崎重工を主体とする共同企業体が設備設計・建設を担当し、今後約4万m³の液化水素運搬船建造も計画しています。

さらに、当社は残余排出への対応やネガティブエミッションの実現に不可欠な技術として、排ガスCO₂回収技術に加え、大気中CO₂を回収するDAC実証設備を神戸工場に設置しました。技術改良と社会実装を通じて地域や産業界の脱炭素化を加速します。



液化水素運搬船 大阪・関西万博会場沖を航行
（未利用褐炭由来水素大規模海上輸送サプライチェーン構築実証事業2015-2023
液化水素輸送・荷役システムの国際標準化に向けたデータ取得 2023-2026）



大気中のCO₂を回収する Direct Air Capture設備（写真左）と、工場内自家発電設備の排ガスからCO₂を回収する Post-Combustion Capture設備（写真右）の2種類で構成

企業プロフィール

所在地 (東京本社) 東京都港区海岸1丁目14-5
(神戸本社) 神戸市中央区東川崎町1丁目1番3号
設立年月 1896年10月 資本金 104,484百万円
(2025年3月31日現在)
代表者 代表取締役社長執行役員 WEBページ <https://www.khi.co.jp/>
橋本 康彦



担当部署

部署名 渉外部
TEL 03-3435-2111 /
078-371-9530
E-mail 当社ホームページより
お問い合わせください